

ショートコメント vol.25 (2014年6月13日)

テーマ：ガソリン価格が2008年以來の水準に上昇

～さらに上昇が続けば、消費者の節約志向に火がつく可能性も～

ウクライナ情勢の混乱などによる原油価格の上昇傾向を背景に、ガソリン価格の上昇が続いている。石油情報センターによると、全国は7週間、関西は3週間連続で上昇が続いており、水準としても2008年以來の高いものとなっている。特に、大阪、兵庫といった都市部を、奈良、和歌山などの郊外が上回る傾向があり、両県の水準は1リットル当たり170円に迫る勢いである。

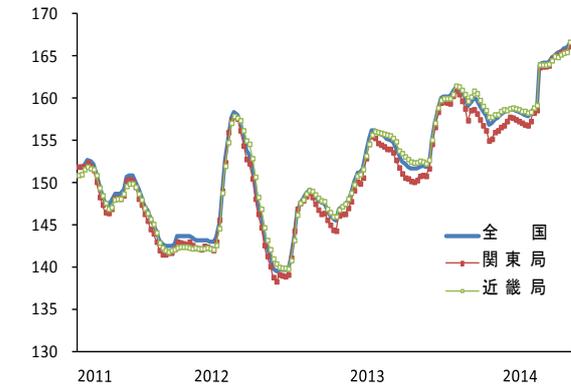
これらが企業活動や消費に与える影響も目立ってきており、運輸業者などを中心にコストの上昇が収益の圧迫につながっているほか、今年のGWのレジャー需要で「安・近・短」の傾向が強まったのも、消費者が車による遠出を避けたことが一因と考えられる。

今後の注目点は、この上昇傾向がいつまで続くかであるが、もちろん原油相場の推移次第ではあるものの、際限なく上昇が続くとは考えにくい。どこかのタイミングで需要の大幅な減少を招くとみられ、販売店としても消費者の動向に敏感にならざるを得ないと考えられる。

足元の消費動向については、駆け込み需要の反動減はみられるものの、大きな落ち込みは免れている。懸念された節約の動きも現状はそれほど強くなく、増税の影響は夏ごろまでに落ち着くとみられている。ただし、増税の規模を上回るほど、所得が増えているわけではないことから、実質消費が減少に転じる可能性が残されていることも事実である。

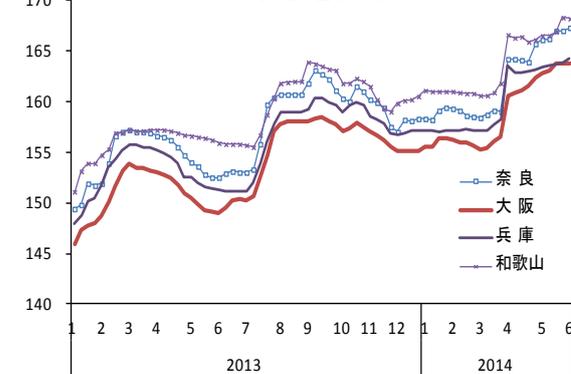
リーマンショック前にみられたように、ガソリン価格の高騰が消費者の節約志向に拍車をかけた例もある。ただでさえ今回は物価全体が上昇局面にあり、家計の負担も増加が続いていることから、これをきっかけとして節約志向に火がつく可能性もあるのではないかと。

図表1 ガソリン価格(週次・レギュラー)の推移



(出所)一般財団法人日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
※価格は税込表示

図表2 ガソリン価格(週次・レギュラー)の推移
【関西の主な府県】



(出所)一般財団法人日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
※価格は税込表示

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp